

大浦中学校教育研究計画

1 研究主題

「9年間を見通した、活用力を身につけた生徒の育成」
～学級集団づくりを基盤とした、学び合い活動の実践を通して～

2 主題設定の理由

本校は佐賀県の南西部、有明海沿岸に位置する全校生徒99名、学級数5クラスの小規模校である。豊かな自然環境にあり、第一次産業や地場産業の従事者の比率が多く、地域の繋がりも強く、生徒を支える地域共同体の良さが比較的残っている地域である。反面、限られた環境の中で9年間を過ごすため、様々な刺激を受けて、自ら課題を見つけ、多面的に思考し、解決していこうとする積極的な学びの姿勢は不十分な傾向にある。

更に近年の地場産業の変化は、保護者の就業形態にも影響を及ぼし、生活習慣が不規則で、家庭での見守り、支援が不足している状況も見られる。その為、学習意欲や家庭学習の習慣化が十分でない生徒もいる。

また、学習状況調査の結果から知識や技能などの基礎的・基本的内容はある程度理解できているが、読解力や記述が必要な問いは苦手としている。

そこで、全職員で西部型授業（つかむ・見通す・考える・考え合う・振り返る）の特に「考える」「考え合う」学習過程での学び合い活動を工夫することにより、生徒に主体的な学習活動を定着させ、身につけた知識、技能を活用していく力を育てたいと考える。

同時に、自己肯定感と相互の肯定感に支えられた、学び合う学級集団づくり（人的環境）と教室環境（掲示物や学習コーナー）を整え、更には家庭学習の習慣化と充実を図りたい。

3 研究の目標

9年間を見通し、学級集団づくり・授業づくりの中で学び合い活動を行うことで、思考力・判断力・表現力を育成し、活用力を高める

4 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

ア 授業のルールを共通化し、小中の学びの連続性を高める。

イ 授業の進め方を「つかむ」「見通す」「考える」「考え合う」「振り返る」とし、学び合いを通して活用力の育成をはかる。

ウ 生徒一人一人が自尊感情を持ち、支持的風土に満ちた学級集団づくりを行う。

エ 朝の時間（短学活）の持ち方やフォーサイトを活用し、自主的に学ぶ姿勢を育てる。

オ 家庭学習に関する関心を高め、学習習慣の定着を図り、質と量を高める。

(2) 研究の方法

研究組織

推進委員会のメンバーは管理職、教務主任、研究主任、副研究主任、学力向上対策コーディネーターとし、全教職員は次の部会のいずれかに所属する。

2つの部会を設ける。

- ① 授業づくり部会：西部型授業の中での「学び合い活動」推進。
- ② 学びの環境づくり部会：学級集団づくり（人的環境）と教室環境づくり（物的環境）と家庭学習習慣の定着。

5 研究の実際

(1) 授業づくり部会

- ・西部型授業の中での「学び合い活動」を通して、活用力を向上させる授業の研究。
- ・「言語活動の充実」を基盤にした授業実践。
- ・学習規律の定着化と「学び合い活動」充実のためのマナーの作成。

(2) 学びの環境部会

- ・短学活の充実を図り、落ち着いた学習の環境づくり。
- ・Q-U等を活用し、個々の課題の解決にリンクした集団づくり。
- ・「フォーサイト」の活用により、見通しを持った生活や「ふり返り力」を向上させ、主体的に学ぶ姿勢を育てる。
- ・「自学ノート」の推進を通して、家庭学習の定着と自主学習の質と量を高める。
- ・家庭学習状況調査の実施、分析。

(3) 教科群部会による授業研究

- ・「西部型授業」の実践を通じた活用力の向上を図る授業の研究と実践を行う。
- ・授業研究会を通して、研究の経過や成果を提案し意見交換を通して、より良い授業モデルを作成する。

6 「活用力」の捉え方と授業づくり

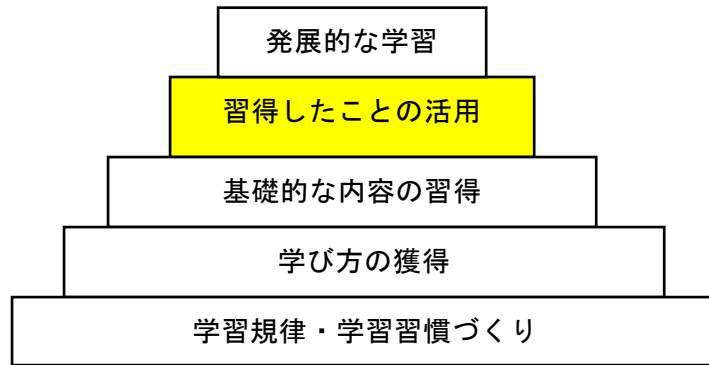
【活用力とは】（児童生徒の活用力向上研究指定事業実施要領 より）

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○知識・技能等を実社会や実生活の様々な場面に活用する力○様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 |
|--|

※ 大浦中の捉える活用力について

「活用力」の向上については「学習規律・学習習慣づくり」「学び方の獲得」「基礎的な内容の習得」を土台として成り立つ「習得したことの活用」とする。

(学習の積み上げモデル)



(児童生徒の活用力向上研究指定事業実施要領 より)

- ・「めあて」や「まとめ」の提示、「ふりかえり」の設定など、共通した授業スタイルにより工夫改善を目指すもの
- ・児童生徒が自分の考えを説明する場面を設定し、様々な考えに触れる良さを認識することで、さらに自らの考えや集団の考えを発展させることを目指すもの

※ 西部型授業の徹底

授業づくりに関しては、西部型授業の「つかむ」「見通す」「考える」「考え合う」「振り返る」流れを意識し、特に「考える」「考え合う」場面での「学び合い活動」を通して活用力の向上を目指す。